情報交流会・環境保全部会 合同部会　講演記録

日時　　令和５年３月１６日（木曜日）　午後２時～午後４時
場所　　大阪府教育会館 たかつガーデン　３階 カトレア
　　大阪市天王寺区東高津町７番１１号
参加者　　３１名

午後２時開会
　事務局より本日の進行予定の連絡があり、続いて情報交流会長 西本義治（日本合成洗剤㈱社長）より主催者挨拶があって、講演に入る。

講演①テーマ「セッツ㈱のＥＳＧ推進と地球温暖化対策について」
講師　・会社紹介と ESG 推進の概略
セッツ株式会社 ESG 推進室　室長　澤田岳史　氏
・地球温暖化対策について
セッツ株式会社 ESG 推進室　リーダー　舟川篤克　氏

（講演内容）

・会社紹介

1889 年 5 月創業　2023 年 5 月で創立 134 年となる セッツの発祥は、産地直結の近代工場であったこと、セッツ㈱の拠点及び本社事業所、生産する商品の紹介があった。

・ESG 推進の概略

日清オイリオグループ会社として、セッツ経営計画セッツアクション 2030 を展開、持続可能な社会「サスティナビリティ」の実現へ取り組んでいる。
根底となる行動指針として高信頼性企業…「キレイと安心のその先へ」を突き進めていく中でセッツらしい高信頼性企業を築く社会的信頼を得ることを目指す。セッツのサステナブルとして、環境・社会のつながり・ガバナンスの３要素を持続可能な開発目標を指標として CSV を設定し各プロセスの遂行業務として展開する。
ESG３要素と SDGs17 の目標、ターゲット・指標、企業活動について説明あり、取組メリットと推進体制、環境目標達成に向けた取り組み、CSV を考慮した目標設定、最後に事業を継続するために守りたいこととして、事業にとって最も大切な資源はきれいな水の持続性（水を守る）で、SDGs の 17 目標と深い関連があるとの説明があった。

・セッツ㈱の温暖化対策について

なぜ温暖化対策を実施するのか、CO_2 排出量、目標設定へのアプローチについて概要の説明あり、セッツの温暖化対策目標の設定として
・2030 年に 2019 年比で 27.5%削減
　【取り組み】　エネルギー使用の効率化、再生可能エネルギー利用検討
・2050 年までに使用電力の再エネ 100%達成
・サプライヤー等との連携により Scope3 カテゴリーの削減に取り組む
　【取り組み】　全体像を把握、より精度を高め、削減ポイントを明確化

目標設定により CO_2 排出量の算定手順、活動量の把握、サプライチェーン排出量等により省エネ施策として削減に取り組む。取り組み事項として、再生可能エネルギーの導入(太陽光発電設備の導入)、省エネの取り組み強化(照明の LED への更新、蒸気・温水ラインの再検討)、省エネ施策(廃熱利用)、情報収集と支援の活用(脱炭素経営に関する情報プラットホーム)等詳しく説明があった。

休憩（10 分）

講演②テーマ「プラスチック資源循環促進法について」

講師　経済産業省 産業技術環境局 資源循環経済課　　山口尚志　氏

（講演内容）

・制度に至る背景

海洋プラスチックごみ問題という社会課題

世界のプラスチック廃棄物は 20 年前の 2 倍に

リサイクルされているのは　9%

不適切な廃棄物管理が環境流出の主因

廃棄物対策・リサイクル制度の全体像

問題化している個別物品については個別リサイクル法が整備されており、プラスチックに係る資源循環環境の促進等に関する法律が 2022 年 4 月より施行された。

日本のプラスチックのリサイクルの現状（2020 年）

廃プラ排出量 約 822 万㌧ 有効利用 86%（リサイクル 24%　熱回収 63%）でマテリアルリサイクル 21%　ケミカルリサイクル 3%である。

政策として、廃棄物処理の有料化、埋め立て・焼却への課税、生産者等によるコスト負担、デポジット制、シングルユースプラの規制などが導入されている。

プラスチック資源循環戦略について概略説明があった。

・法律の内容説明

プラスチック資源循環促進法について

プラスチック素材に着目、製品設計からプラスチック廃棄物の処理に至るまでの各段階において、資源循環等の取組を促進するための措置を講じるべく法律を制定

プラスチック使用製品設計指針の全体像

使用製品の環境配慮設計を促進するため、国が「プラスチック使用製品設計指針」を策定。指針内容及び先行事例、設計認定制度について説明があった。

ワンウェイプラスチック(特定プラスチック使用製品)について

使用製品の使用合理化（判断基準）についての内容と先行事例の説明があった。

市町村による分別収集・再商品化

プラスチック資源として回収・リサイクルすることを促していく方法としての内容及び再商品化計画の認定の取得状況について説明があった。

製造・販売事業者等による自主回収・再資源化事業

自主回収・再資源化事業のスキーム及び使用済プラスチック使用製品の自主回収を行

う先行事例について説明があった。

プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出の抑制・再資源化等（判断基準）

排出事業者の判断基準について及び排出事業者による再資源化事業と再資源化に資するサプライチェーンの見える化の先行事例の説明があった。

質疑応答があって、終了した。

午後４時　奥中泰征理事長（㈱マスター 社長）の閉会の挨拶があって、講演会は終了した。

経済産業省との意見交換会

情報交流会・環境保全部会 合同部会　講演会に続いて、経済産業省とプラスチック資源循環促進法に関連して意見交換を行った。

日時　　令和５年３月１６日（木曜日）　午後４時１０分～午後５時１０分

場所　　大阪府教育会館 たかつガーデン　３階 カトレア

参加者メンバー　　（敬称省略）

・経済産業省　　２名

産業技術環境局　資源環境経済課

プラスチック資源循環担当　係長　　山口　尚志

近畿経済産業局　資源エネルギー環境部　環境・リサイクル課

課長補佐　市平　和久

・近畿石鹸洗剤工業協同組合　　７名

理事長	株式会社マスター	社長	奥中　泰征
理事	日本合成洗剤株式会社	社長	西本　義治
理事	澁谷油脂株式会社	社長	渋谷　禎彦
理事	株式会社東邦	社長	西本　武司
理事	株式会社フェニックス	社長	中野　裕太
理事	株式会社テシマ化研	取締役開発部長	古谷　敏昭
監事	セッツ株式会社	社長	大前　敏和